

崎 定 長 検

一級 さん

Vol.32

ご先祖さまからの 贈りもの 黒岩 靖子 さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

「この街には何も無い」。そう言つて長崎を飛び出した福山雅治さん。私自身もそうでした。若いころは地元を離れ、長崎の魅力や歴史には全く関心を持たない半生でした。知り合いに勧められ、歴史文化博物館の展示解説ボランティアの研修を受けた時の衝撃たるや！ 「私は今まで何を見てきたんだらう」。最も濃密でエキサイティングな歴史のエッセンスが身近に息づいていたことに、この年になるまで全く気が付いていませんでした。激しい後悔とともに、「まだ遅くない」とばかり、さるくガイドにも応募し、今まさに「歴史が恋人」状態に陥っております。

そんな中で長崎検定も受験したのですが、自分の意志だけで好きなことを勉強することのなんと楽しいことか！ 大学受験以来の問題集との格闘は、久々の血湧き肉躍る興奮でした。そして思いがけない発見もありました。自分の先祖との出会いです。

「長崎県 文化百選 事始め編」(長崎新聞社)

の「泳気鐘」の項で、長崎熔鉄所の立ち上げの時、木造建築物等の建設に携わっていたのが、私の祖父の祖父の弟、黒岩儀八郎であることが分かりました(出典は「江戸長崎談叢」第2巻第4号)。

うちが三菱一家であることは承知していましたが、まさか三菱が来る以前からそこで働いていたとは！ 折しも三菱長崎造船所の施設は世界遺産に登録され、私は長崎をPRする活動をしている。これは運命か！ 三菱一筋だった父が生きていれば、きっと喜んでくれたはず。三菱史料館内に展示されてある破壊されたタービンローターは、まさに父が当事者として関わったものでした(長兄の話では、事故の後一カ月ほど、父は警察に拘留されたそうです)。

昔は、「どんづまり」の長崎が嫌いでした。しかし不思議なもので、昨今は「田舎」「穴場」「秘境」の魅力が見直され、逆転の発想も可能になってきています。地理的不利はもはやハンディではありません。「日本の端」を逆手にとって、「わざわざ

行きたい」「スローな旅で訪れる」「いにしえの游学の都」など、遠距離そのものを楽しむ旅をアピールしてはいかがでしょう。

日本各地で豪華寝台列車が次々デビューしようとしています。ぜひ「美しき終着駅」長崎へ。期待の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産に登録されれば、長崎県全体が聖域となり、「さいはての宝箱」にもなりえます。今から「遠い旅」に人をいざなう心理的誘惑を仕掛けておくのも、一つの手ではないでしょうか。
私の先祖も含め、長崎に生きた多くの先人たちに感謝、たくさん宝物をありがとう。



【プロフィール】

1964年長崎市生まれ。浜町の書店に勤務。現在、長崎市立図書館、長崎歴史文化博物館、さるくガイドでボランティア活動中